

# 植物と人々の博物館メールマガジン

第 111 号 2024 年 6 月 3 日発行



新緑の箱根温泉と名古屋の東山動植物園に行きました。大きく様変わりしていきませんが、変わらず好ましい所です。小菅の湯駐車場わきで、インドカレー屋が始まりました。インド好きの姉さんが週 3 日開いているそうです。チャパティも焼くそうで、今度行くときはいただいております。アジサイ、クチナシ、ユリと咲き始めて、美しく誠実なのは花々です。野川沿いの家々の庭も、途切れることがなく、多彩な花々が咲く美しい小径です。心の在りかをここに置きたいです。

植物と人々の博物館は 2024 年も社会的共通文化財である標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご利用くださり、整理も一緒に手伝っていただければありがたいです。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：6 月は晴天であれば、原則月曜日か金曜日 10:30~14:10 に開館します。この間に、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、日程調整してご案内します。

担当 木俣 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

主な作業：下記に現況写真

- ①書籍・資料の整理
- ②民具の整理
- ③展示の企画：たとえば、タイの民具、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念
- ④植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

## ○報告

1) 食文化関連の書籍を整理しました。次は植物学関係の書籍、最終的には、海外調査で収集した書籍を整理します。森とむらの図書室は総計 8000 点ほどの資料・書籍になると思います。

2) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来 2025 年に創立 50 周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で一部公開しています。

<https://www.milletimplic.net/archives/historyinch2025.html>

## ○予定など

1) 民族植物学ノオト第 18 号は 2025 年 3 月末に発行する予定です。年内にご寄稿ください。また、自然文化誌研究会創立 50 周年の特集を加える予定です。これまでの記録集を整理しておきます。編集子は「希望と祈り」(仮題)で信仰論を書いてみたいのです。すべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ(下記:ミュージアムグッズの項)で読めます。意外に相当数の方々が読んでくださっています。

<https://www.ppmusee.org/goods.html>

## 2) 電子書籍:

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は、第 12 章中央アジア諸国からアフロアジア地域をやっと改訂、公開しました。沢山の探検旅行記を読み、農耕文化に関わる記述を摘要、引用しました。この地域には東京学芸大学中央アジア学術調査隊(1993 年)、1997 年、2004 年にも調査に行きました。フィールド・ノートデータベース化して公開しました。個人情報削除しています。主課題の第 4 章~第 8 章までインドの雑穀農耕文化複合をまとめていきますが、同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々との対談テープの文章化を始めました。

退職後 10 年計画で進めてきた自選集全 6 巻は完成できていませんが、やっと佳境に入りました。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。また、50 年の研究成果の概要をまとめとして栽培穀物の起原、栽培化過程、および伝播におけるインド亜大陸の重要な歴史的役割を解き明かし、その修正仮説を英文で要約(第 5 巻“Essentials of Ethnobotany”)するところまでは、あと数年頑張ります。

3) 公式 HP: 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業(ndl.go.jp)で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍を整理して、ご利用いただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

井堂さんからはご論文や雑穀、小金井関係の書籍、秦さんからは『SDGs と社会教育・生涯学習』をいただきました。うかたま、現代農業、Ecoplus 会報、お米の勉強会会報、環境教育学研究第 33 号を寄贈いただきました。西川至先生の留保分約 100 冊を遺言により、西川文庫に追加寄付いただきました。感謝申し上げます。

## 5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館へのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく申し上げます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。ご希望の方には自給農耕ゼミ（佐野川）で有機無農薬により栽培したキビなどを精白／製粉して適量をお礼に差し上げます。これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

○予定 詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

5月は村祭りキャンプ（小菅村）が多くの参加者を迎えて無事実施でき、7～8月は冒険学校、タイ・日本クラブキャンプ、などを予定しています。

## 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

## ○ 報告

### 1) 第39回泉龍寺仏教文庫講座（狛江）の講演録を公開

「雑穀、生き物の文明への移行～人新世の希望はここにある」の映像や音声記録を文字化してくださったので、校正して公開しました。

講義資料：[www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/livecultras2.pdf](http://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/livecultras2.pdf)

狛江市は小菅村と連携協定を結んでいます。学大も小菅村と社旗連携協定を結んでいます。

### 2) 自給農耕ゼミ（佐野川）

宮本茶園の雑穀見本園は、耕運機で、深く耕してもらい、播種しました（写真）。

昨年収穫した穀物は木俣が預かっています。

①今年、雑穀栽培を始めたい方には種子を差し上げます。今が播き時です。ご連絡く

ださい。雑穀街道在来のキビ、アワ、ヒエ、モロコシ、シコクビエ、ハトムギ、オカボ、半白キュウリ、ウズラマメなどです。数名の方が申し込んでくださってくださり、お送りしています。

連絡先：[kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp) 木俣

②簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。簡単な栽培、加工、調理についてお伝えします。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)  
[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](http://farmsklec8p.pdf)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](http://milletimplic.net)

詳細は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学』を検索してお読みください。

③今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しますので、種子継ぎなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。

[kwangjuul1980@yahoo.co.jp](mailto:kwangjuul1980@yahoo.co.jp) ご連絡、ご参加をお待ちしています。

### 3) NPO さいはら総会

5月19日にありました。雑穀・在来種の保全のための地域おこし協力隊員を募集しています。詳しくは下記にあります。

<http://www.city.uenohara.yamanashi.jp/page/1015218.html>

### ○予定

植物と人々の博物館は今後も継続します。標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

<https://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

1) 今後の計画について検討しています。博物館研究員の学びを中心に、一般参加希望者には一部公開 zoom の方向で、環境学習セミナー（第41回）を再開する案が出ています。これの練習として、次の環境教育学会での対面で自主課題研究（座談会）を企画しました。

### 2) 第35回日本環境教育学会大会

日時：2024年8月29日～9月1日

場所：江戸川大学、千葉県流山市

[https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35\\_chiba2024](https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35_chiba2024)

学会創業者（編集子は INCH メンバーと一緒にこの学会を創りました）の遺言として、1年だけ会員に戻って、「環境学習原論一心の構造と機能」を一般口頭発表（8月31日か9月1日）で行う予定です。また、共同企画者数名の賛同を得ることができましたので、自主課題研究（9月1日）「希望を創る環境学習を求めて」も応募します。人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、根底的な生活様式の実践哲学として ELF 環境学習過程を提案し、日本社会を復興する希望、学問について話し合いたいです。若い方たちと直接話して、反応を見たいです。提出

した要旨は下記です。ぜひ、ご参加いただき、希望を創る話し合いの輪に加わってください。お願いします。

### 対話集会（第35回日本環境教育学会大会自主課題研究会）へのお誘い案

この学会の準備および初代事務局長として、ぼくは自然文化誌研究会のメンバーの協力を得て学会を創りました。もちろん、高名な先達沼田眞さんはじめ、多くの方々との共同作業でもありました。学会創業者の遺言として、1年だけ会員に戻って、「環境学習原論—心の構造と機能」を一般口頭発表（8月31日か9月1日）で行う予定です。また、共同企画者数名の賛同を得ることができましたので、自主課題研究（9月1日）「希望を創る環境学習を求めて」も応募しました。人新世における自己家畜化に抗い、生き物の文明へと移行するために、自然文化誌研究会で実践してきたELF環境学習過程に基づき、根底的な生活様式の実践哲学として環境学習原論を提案しました。日本の社会を復興する希望、学問について深く話し合いたいです。若い方たちとも直接対話して、意見を聞きたいです。提出した要旨は下記です。ぜひ、ご参加くださり、希望を創る話し合いの輪に加わってください。よろしく申し上げます。

企画提案代表者 木俣美樹男

（自然文化誌研究会／植物と人々の博物館研究員）

#### 1) 第35回日本環境教育学会大会

日時：2024年8月29日～9月1日 場所：千葉県流山市、江戸川大学

[https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35\\_chiba2024](https://www.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/601-jsfee35_chiba2024)

#### 2) 自主課題研究予定案：希望を創る環境学習を求めて

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/see24kimata2.pdf>

\* 一般発表予定案：環境学習による心の構造と機能の文化的進化

<https://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/see24kimata1.pdf>

#### 3) 対話進行

○参加定員 40～50名

○9月1日、15：30～17：30 時間配分2時間

共同司会はじめの挨拶 藤村コノエ（環境文明21） 5分

課題研究趣旨説明 木俣美樹男（自然文化誌研究会／植物と人々の博物館） 5分

対話座談会 自由対話 参加者に発言を多く求める 各数分

指定討論者 必要に応じて 各数分

長浜和代（お茶の水大学附属お茶の水小学校）

小柳知代（東京学芸大学環境教育研究センター）

斎藤博嗣（一反百姓じねん道）

共同司会まとめの挨拶 福田恵一（元中学校教員） 5分

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ヴェトナム）、大澤由実（神奈川）ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会**（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）  
事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）

~~~~~

### 編集子独り言：

子供、青春、学生、社会人になってからも、その時々で有難いことに信頼できる幾人かの師友がありました。大方はすでにこの世にはいません。人生は短く、そろそろ老衰、早くは自殺、病死、事故死など、幾人かの師友を失いました。生きているうちに、もう一度、会っておきたい親友が数名あります。その一人、小学生の時の友人しげちゃんに会うために、名古屋の東山動植物園に行きました。いまさらながらですが、子供の時の共通の記憶とその後の彼の人生を確かめたかったからです。旧友と人生のよしなしごとを語り合い、とても楽しい時間でした。

<訃報>愛知和夫元衆議院議員が逝去なさったとニュースで知りました。環境教育推進法を超党派議員立法する時に、まとめ役をしてくださいました。何度か事務所にもうかがったし、シンポジウムなどでもご一緒していただきました。尊敬できる議員に出会えて、幸いでした。ご冥福を祈ります。小野田寛郎元少尉が2014年に他界されていたことも最近知りました。僕が退職した年で、もう10年が経ちます。短い人生で、信念ある高潔な方々と出会えて、その思い出は貴いです。

### 写真

宮本茶園、佐野川のムギ畑と雑穀見本園。小金井の市民農園



箱根温泉の朝日と箱根登山鉄道（強羅駅）



名古屋市の東山動植物園、子供の頃に恐竜がいる



評判のツルバラとクレマチス、テイカカズラ、バンマツリ。エディブル・ウェイ



植物と人々の博物館の整理作業状況

